

海外だより

当研究室のメンバーである本学教授坂本賢三氏は、学会出席のため現在渡欧中であるが、氏の便りがこのほど届いたのでここにそれを掲載する。

アムステルダムに四日、コペンハーゲンに三日、ストックホルムに四日、オスロに三日と北欧ばかりで十二日間すごしましたので、北欧の学生運動についてご報告します。

アムステルダムの大学はまったく街の中にあつて、キャンパスがなく、日本の大学のイメージとは大分ちがいますが、静かな環境といえるでしょう。北欧は学生運動はあまり盛んでないところですが、構内に入ると、「アメリカは手を引け」という落書が書いてあったり、星条旗の十三本の条のうち青を牢獄の格子に見立てて、中に黒人がとじこめられている図柄のポスターなどありました。去年はベトナム戦争反対のデモがあつて市民も入れて三千人くらい集まつたそうです。しかし、オランダは全体的にマイホーム主義が強く、保守派の連立政権（「カトリック国民党」中心のマライネン内閣）がわりとうまい政治をしていて、野党には労働党（社会民主主義党）共産党、平和社会党（ニューレフト）などがありますが、あまりふるわないようです。

デンマークではコペンハーゲン大学を訪問。ここはクリスチャン一世が一四七八年に建てた古い大学です。ここでも「アメリカは手を引け」という落書を見ましたが、探さないとないくらいで、安定ムードです。でもコペンハーゲンにはアムステルダムより大きい本屋が沢山あつて、ショーウィンドーにはゲバラの日記や北ベトナムの戦記、それにドイツチャーの三部作などがペーパーバックで前面に飾つてありました。学生の読んでいる本でも、ゲバラとケネディ、それにジョンソンの政策を書いた書物が多

いようでした。

ぼくの見たところ北欧で一番運動の盛んなのは、ストックホルムです。スウェーデンは、もともと民主的でスラム街の全然ない社会保障の行き届いた国ですが、よくやっています。大学では「FNL」を支持せよ」という落書やビラが張つてあるし、このスローガンは地下鉄の階段の壁や公衆便所の壁にまで書いてありました。北欧では日の暮れるのが午後九時頃で、仕事は四時で終わりますから、夕方は人がいっぱい公園に集まるのですが、ストックホルムの地下鉄の中央駅に、丁度、新宿の西口みたいな吹きぬけの地下広場があつてここにいつも老人や若人の男女が集まります。その広場に大きな壁新聞の場所があつて、マジックでみな勝手なことを書いています。「FNLを支持せよ」というのは勿論ですが、「社会主義萬才、マルクス、エンゲルス、レーニン、トロツキー萬才」とか、「一九一七年十月革命萬才」とならんで「一九六八年五月革命萬才」などというものもあります。そこに二、三人のアジテーターがいて「言論の自由委員会」というマークのある説教壇みたいなところ（階段の途中）で何か喋っています。よくわかりませんが、ソ連の社会主義とキューバの社会主義といかに違うかというようなことを、演説していたようです。すると、牧師風の男が出てきて大声で反論します。それにまた反論があつて、その周囲はいっぱいの人だから、最近梅田の地下道や安全橋のうえで見られるような風景です。ぼくはスウェーデン語はよくわからないのですが、牧師風の男（これもなかなかのアジテーターでした）が、「学生は勉強が中心なのにプロパガンダをするとは何事だ」といった意味のことを大声で言い、これに対して学生の方が「アカデミーが民衆や労働者から遊離して何の意義があるのか」といったようなことを大声で答え、見ている二時間半も議論してしまいました。周囲の人もそのまま聞いているのです。あちこちに議論の別の輪ができていたりもしています。両方とも「何パーセント」といったことばが飛び出してく

ますから、中々キメの細かい議論のようでした。

翌日行ってみると、壁は白ペンキで塗り直され「FNLはファシズムだ」とか「資本主義を守れ」とか「一九六八年には、ソ・米対中国の戦争を毛沢東がたくらんでいる」とかの右翼的な言葉が多くありました。もちろん「アメリカファシズム」という文字もあり、その他「ヒゲ面」「ヒゲ面」と書き並べたものもあり、（これは隣りの女性に訳して貰いました）勝手な落書板です。毎日朝と夕とでちがいが、毎晩、議論をしているのには感心しました。時間がたつぷりあるせいもあるでしょう。警官もいますが、別に何もしないで立っています。集まっている人には年令も種々、男女は入りまじり、国籍も色々で、「一体何を演説しているのだ」とぼくにたずねてくるフランス人もいるくらいでした。こっちも手当りしだいに人をつかまえて意見をきいているのですが、演説や壁新聞を読める人が三分の二くらい。そのうち、英語かフランス語かドイツ語で説明できる人が三分の一くらいでした。中国を非難していた壁新聞を見て隣りにいた中年の男が、「中国はもっとレベルが高い。こういうのを書くのはファシストだ」といっていました。レーニングラードに長く住んでいて、奥さんはロシア人だそうです。ロシア語、英語、スウェーデン語をチャンポンにして話してくれました。「王制をなくせ」とかスウェーデンの旗に赤で×印をつけたのがあるかと思うと、「スウェーデン萬才」とか「スウェーデンはベトナム戦争をやめさせない」などというものもあります。

コペンハーゲンでも、ゲバラと北ベトナム（著者は忘れました。以上、写真はたくさんとりましたので帰ってお見せします）ドイツチャーの本が沢山出ていました。オスロ大学までくると全然雰囲気がちがいます。新しい学舎の方を見ているし、夏休みというところもあるでしょうが、政治スローガンのビラや落書は全然なく、大学の壁に書いてあることばは「セックス」ということばだけでした。

以上印象記のみですが、北欧のことはあまり紹介されていないと思うのでご報告します。